

地域の歴史的空間特性と地域住民の環境認識の関係に関する研究

- 富士五湖地域を対象として -

A Study of the Relationship between Historical Spatial Characteristics and Local Residents' Perceptions of the Environment in the Fuji Five Lakes Region

東京大学 助教 福島秀哉

（研究計画ないし研究手法の概略）

1.背景

近年、国土・地域計画における固有性、多様性をいかにした地域づくりの重要性や、環境、経済、社会のバランスが取れた持続可能な地域の発展の必要性が指摘され、学術分野においても、環境、経済などの定量的データの評価や、計画の前提となる地域特性の分析に関する研究が蓄積されてきている。中でも固有性の基盤となる地域の歴史的空間特性と、地域づくりにおいて重要な要素であるソーシャルキャピタルの醸成や近隣コミュニティの結束等へのつながりが指摘されている環境認識（Environmental Cognition; EC）の関係性の分析が求められている。特に我が国の地方都市の多くが該当する、高度経済成長期の開発等を通して空間的に大きく変容した地域においても、地域社会の特徴とともに歴史的空間に関する環境認識が共有・継承されている地域がみられ、その共有・継承のメカニズムの解明も重要な課題である。

また歴史的空間特性を規定する集落空間の形成において、その地域の地質・地形は、自然発生的集落形成とその後の近代的なインフラ開発の両者を通じた影響を与えていると考えられる。近年大規模な災害が頻発する日本では、防災とまちづくりの一体的推進が求められており、歴史的空間特性の把握においては、地質・地形の影響を含めた分析の上で、住民の空間認識の関係を明らかにすることも重要な課題である。

2.目的

本研究は富士五湖地域を対象とし、地域の生活空間の歴史的特徴と、地域社会を構成する地域住民の環境認識（EC）を空間的に重ね合わせ、両者の関係性を明らかにすることを目的とする。特に地質・地形の影響を含めた集落空間形成と、住民の空間認識、特に **landscape value** との関係性を明らかにすることを目的とする。また現代の地域社会の特徴としてみられる環境認識の共有・継承のメカニズムについて考察を試みる。

3.既往研究と本研究の位置付け

空間的特徴の歴史性を記述する試みとして、英国で公図による土地利用変化の分析に基づく歴史的景観特性アセスメント手法（Historical Landscape Characterization; HLC）が提案され（J. Clark et al.2004 など）、日本に適用しエリアとしての歴史的価値の評価が試みられている（宮脇 2012 など）。福島（2017）は、領域論による歴史的な社会空間特性の把握に加え、HLC による空間の歴史的特徴と地域社会の関係の空間的分析から、現代における集落空間の特徴として記述している。本研究はさらに HLC と地域住民の EC の関係の空間的分析を試みるものである。環境認識については同認識を構成する地域愛着に関して多くの研究が蓄積されてきたが、地域の空間的特徴と関連づけた研究は少なく、Zhou et al. (2015)

が空間的特徴の歴史性と地域愛着の関連性に着目した研究成果を報告しているが、同関連性は限定的であり空間的特徴の歴史性と EC との関係性把握は端緒についたばかりといえる。

本研究のような地域の社会・空間特性の分析に関する学術研究の蓄積はまだ少なく、さらに本研究の特徴は、実際の諸計画論の基礎となるデータ構築を目指しその空間的特徴の把握を試みる点、合わせて地域社会における環境認識の共有・継承のメカニズムの解明を試みる点にある。

4. 研究手法

本研究の対象地である富士五湖地域は、昭和初期頃からの広域的インフラ整備、観光開発により大きく生活空間、生活様式が変化した。さらに世界遺産登録により将来も我が国の重要な開発地域である。一方で、現代において地縁・血縁による地域組織や地域の伝統行事などに歴史的な社会特性が色濃く残っている。本研究では、中でも富士五湖で最も観光開発が進んでいる湖の主要地区である、山中湖畔の山中・平野、河口湖畔の船津・河口の4地区を対象地区とした(図1)

はじめに集落形成の経緯、寺社仏閣、学校、公民館など地域の主要施設から集落空間の特徴を整理する。さらに各対象地区の土地利用に関する歴史的資料を収集し、地形図より観光開発以前の旧集落エリアと、現在までの観光開発エリアを地図上に整理した。次に対象地区の人口構成、祭祀や行事など地域活動の実施状況、地域住民の日常的活動の内容等を文献・ヒアリング調査により把握し、対象地区の社会的特徴を整理した。

環境認識(EC)に関するアンケート調査は、自治体の協力を得て、自治会を通じた配布とポスティングを並行して4地区の住民に対して実施した(表1)。アンケート内容としては、居住する地区の湖周辺における景観価値(landscape value)に関して、次の6つの指標(観光: Tourism opportunities, 美観: Scenic/aesthetic, 交流: Social interaction, 神聖: Spiritual, 歴史文化: Heritage/cultural, 自然: Wilderness/pristine)¹⁾を感じる箇所を尋ね、地図上に各地区の景観価値をマッピングし、集落空間形成、施設、行事等との関係性に関する考察を行った。次に山中区を対象とするアンケート結果(全1,272世帯配布有効解答93)から、集落の中心に関する環境認識の特徴を分析した。



図1 富士五湖地域と対象4地区

表1 対象4地区の世帯数とアンケート配布・回収数

Target district	Yamanaka	Hirano	Funatsu	Kawaguchi
Lake name	Lake Yamanaka		Lake Kawaguchi	
Number of residences (households)	563	187	5,034	976
Number of distributed (households)	551	187	629	584
Number of responses (households)	112	30	86	75

(実験調査によって得られた新しい知見)

5.対象 4 地区の空間特性と地域住民の環境認識の関係

(1) 地質・地形条件と 4 地区の集落形成過程の特徴および空間特性

4 地区の地質・地形の影響を含めた、旧集落エリア、観光開発エリア、湖との位置関係を整理した(図 2)。湖南側(富士山側)の 2 地区(山中、船津)は、富士山の噴火による火成岩地質であり、地形的特徴として湖と集落空間の間の高低差があるため、湖の水位変動による浸水を避けることができ、旧集落と湖の距離が近い。そのため湖を観光資源とする観光開発が旧集落の近くで行われ、旧集落エリアと観光開発エリアが近接している。一方、湖北側の 2 地区(平野、河口)は、堆積岩地質で、湖と集落空間の間の土地の勾配が緩く、湖の水位変動による浸水の影響を受けやすいため、旧集落は湖から離れて立地していた。その後湖を観光資源とする観光開発が、旧集落エリアと湖の間の広大な土地を活用して進められた。その結果、内陸側の旧集落エリア、湖畔側の観光開発エリアが離れて立地している。

(2) 4 地区の環境認識としての景観価値の特徴

各地区の景観価値のアンケート結果を図 3 に示す。共通して自然の景観価値はあまり指摘されなかった。美観・交流・観光は観光開発エリアに、神聖・歴史文化は旧集落エリア内に多くみられるなど、各エリアによる空間認識の偏りがみられた。複数の異なる景観価値が重なる箇所は、当該エリアの施設の多面的価値が共有されていたり、伝統的行事と観光イベントが両方行われていたりすることで、住民の景観価値の重なりがみられた場所であった。

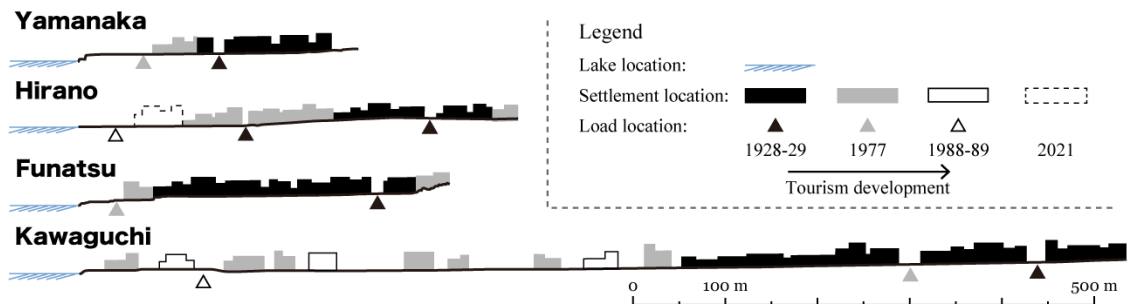


図 2 対象 4 地区の形成過程と集落中心部断面の構成

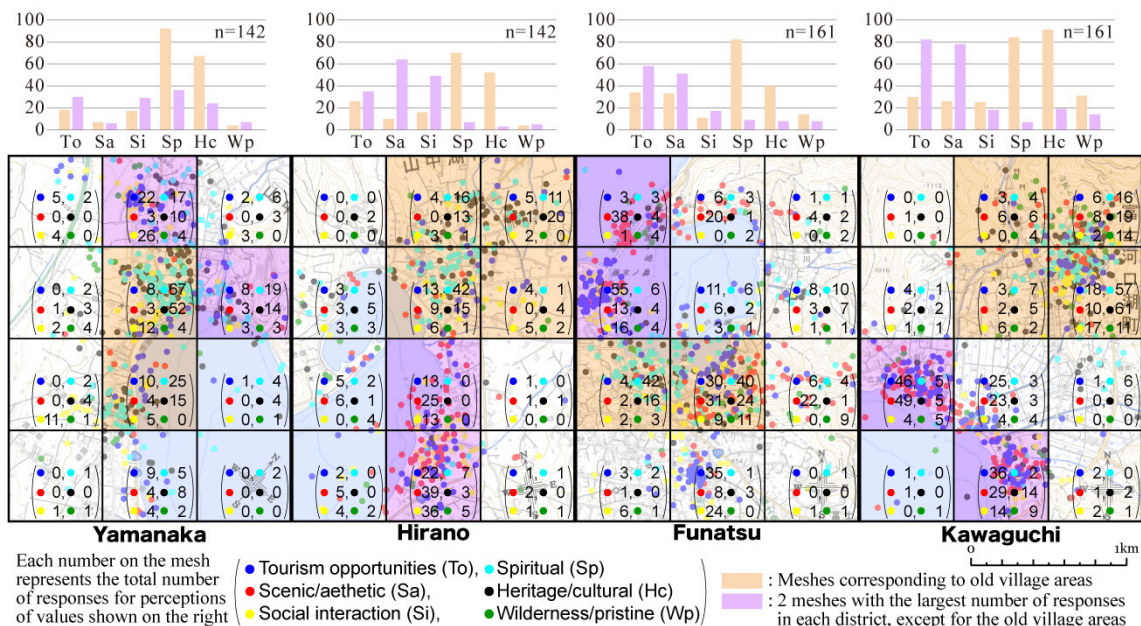


図 3 対象 4 地区の空間特性と地域住民の環境認識の関係

(1) 山中区の集落空間の特徴

山中区は、山中湖西側の富士山の火山山麓扇状地上に位置し、人口 3,409 人、1,272 世帯（令和元年 11 月時点）と人口、世帯数とも山中湖村で最大の区である。鎌倉往還沿いに形成された列状集落である山中村を基礎に発展した。区内を旧鎌倉往還と湖畔沿いの国道 138 号線（湖畔道路）の 2 本の幹線道路が通り、北西部には東富士五湖道路の山中湖 IC が位置し、富士吉田市方面からの村の玄関口となっている。湖畔道路沿いには観光客向けの飲食店や小売店が立ち並び、湖畔側には湖畔駐車場に加えて、現在山梨県によるサイクリングロード整備が進められている。一方旧道沿いは住宅が多く、街道集落の景観を部分的に残している。主な歴史資源としては、山中浅間神社、山中諏訪神社、出口稲荷神社、九郎貴神社、御旅所、山の神などの神社や道祖神、旧道沿いに位置する山中口留番所跡祭である「山中明神安産祭り」（以下：安産祭りねたどんど焼きといった伝統行事が、地区住民

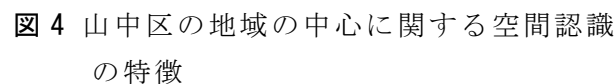


図4 山中区の地域の中心に関する空間認識
の特徴

全有効回答の地域に関する住民の空間認識を重ね合わせたものを図4に示す。地域の中心に関する住民の空間認識の回答分布は、山中諏訪神社・山中浅間神社周辺から御旅所にかけての旧集落・旧道部分および湖畔道路沿いにまとまっている。地域の中心に関する住民の空間認識について最も回答率の高いメッシュは明神前交差点の周辺に該当する場所で、58.1%の回答が集中した。この明神前交差点周辺は上記の山中諏訪神社・山中浅間神社といった地域の伝統行事に関わる施設が集中すると共に、湖際に山梨県がサイクリングロードを整備するなど、観光地としても開発されている場所である。このエリア周辺は、5章の分析において美観・交流・観光は観光開発エリアに、神聖・歴史文化は旧集落エリア内に多くみられるという全体的な傾向と同じ結果がみられたものの、当該エリアの伝統的行事と観光イベントの双方を通して、複数の異なる景観価値の重なりが指摘された場所であり、多様な景観価値の重なりと、地域の中心に関する住民の空間認識の関連性が示唆された。

エリアによって傾向が分かれた景観価値が重なっている箇所は、施設の多面的価値が共有されていたり、伝統的行事と観光イベントが共存していたりするポイントであった。本研究

では、地質・地形の影響を含めた集落空間形成と、住民の空間認識、特に景観価値との関係の一部を明らかにした。また山中区における地域の中心に関する住民の空間認識の分析から、最も回答が集中した箇所と多様な景観価値の重なりがみられた箇所の関連性を指摘した。

8.今後の課題

今後は集落の成り立ちと集落空間の特徴を住民と共有しつつ、景観価値をはじめとする環境認識に踏み込んだ空間特性を考慮したまちづくりの推進が重要となる。地域を中心に関する空間認識に対する、回答理由からみた分布の特徴などの詳細な分析や、富士五湖4地区における旧集落エリア、観光開発エリアの景観価値の偏りとの横断的分析を通じた、歴史的空間特性と地域住民の環境認識の関係の精査は今後の課題としたい。

参考文献

- 1) Greg Brown, Delene Weber, Kelly de Bie, “Assessing the value of public lands using public participation GIS (PPGIS) and social landscape metrics,” Applied Geography, Vol. 53, pp. 77-89, 2014.
- 2) 福島秀哉：領域の変化と景観の時間的奥行きからみた現代の集落空間の特徴-山梨県南都留郡山中湖村山中区を対象として-, 土木学会論文集 D1, Vol.76, No.1, pp.74-93, 2020

(発 表 論 文)

Hideya FUKUSHIMA, Yuta ITSUMI, Shu KANBANYASHI: Relationship between the Process of Settlement Formation and Residents' Spatial Perception in the Fuji Five Lakes Region, Proceedings of 2022 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, 2022.8 (投稿中)

他山中区の環境認識の特徴等に関する論文についても今後投稿する予定。